

科目名	立体造形法						
授業形態	講義	学年	2年	開講時期	前期	単位数	2単位
担当教員	時野谷 茂						

内容および計画	<p>デザインに携わるものは様々な理由から形を作られる。自由に造形することは一見容易に思えるかもしれないが、自由であればあるほどそれは易しいことではない。そのとき造形上のよりどころとなるのが「感情表現」や「機能性」の高揚といった目的や「必要性」「生産性」「経済性」「加工技術」といった制約、素材の持つ特性といったものである。本講義では造形表現の概要を学ぶとともに、形を発想し決定していく上での手がかり、よりどころとなる要素について論じ、その展開方法について学ぶ。つまり形を作り出していく上での手がかりの見つけ方を習得することが本講義の目的である。</p> <p>造形法は宣言的知識（ofの知識）ではなく手続き的知識（howの知識）として習得すべきものである。従って本講義では講義内容を元に各自が造形アイデアを出し合い、それについてディスカッションすることで知識を体得することも本講義の目的のひとつである。そのため本年度は3週間で1課題の割合で4つのテーマを用意した。学生の負担を余り大きくしないよう発表に際して準備するものはパワーポイント2, 3枚の分量を目安とする。</p>
1	造形表現とは
2	造形手法
3	素材から造形のヒントを得る
4	素材から造形のヒントを得る
5	素材から造形のヒントを得る アイデア発表とディスカッション並びに講評
6	動きを意識した造形
7	動きを意識した造形
8	動きを意識した造形 アイデア発表とディスカッション並びに講評
9	機能を超える造形
10	機能を超える造形
11	機能を超える造形 アイデア発表とディスカッション並びに講評
12	光を生かした造形
13	光を生かした造形
14	光を生かした造形 アイデア発表とディスカッション並びに講評
15	まとめ 造形表現 芸術的表現とデザイン・工芸の表現

教科書	特に指定しない
-----	---------

参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・高山正喜久 『立体構成の基礎』 美術出版社 ・辻 弘、杉山明博 『造形形態論』 三晃書房 ・後藤 武、佐々木正人、深沢直人 『デザインの生態学』 東京書籍
-----	--

成績評価	評価方法	割合
	結果（作品、考え方、発表）	60 %
	授業内での発言内容と他人の作品に対する評価	40 %
	発表したアイデアと講義内容との関連性、ディスカッションにおける発言を重視する	

学習到達目標	形を作る上での手がかりの見つけ方の習得
--------	---------------------

先修条件	
------	--

その他	
-----	--